



山田せつ子+枇杷系ダンス公演

Setsuko Yamada + Biwa-kei Dance Performance
Mori——*Tsuki-no Mitsu-o Toru* (Woods, gathering honey of the moon)

音楽=藤枝守 美術=美音子グリマー

東京

[シアターX提携公演]

1995年

3月3日(金) 開演19:30

3月4日(土) 開演15:00

3月5日(日) 開演15:00

開場は各回とも開演の30分前

会場place

シアターX(カイ) Theater X

伊丹

AI HALL

[DANCE COLLECTION Vol.12]

1995年

8月/8日(金) 開演19:30

8月/9日(土) 開演15:00

開場は各回とも開演の30分前

会場place

AI HALL(伊丹市演劇ホール)

森

月ノ蜜ヲ採ル

構成・振付：山田せつ子

出演：山田せつ子

須田郡司
堀口めぐみ
斎藤清美
花岡安佐枝
梶塚秀子
岡倉佳代

音楽：藤枝守

美術：美音子グリマー

照明：東京・相川正明

伊丹・澳義則

音響：東京・須藤力(モルク社)

伊丹・加藤陽一郎(株式会社SFC)

舞台監督：樽真治

協力：男沢由香里

制作：枇杷系

志賀玲子(ヴィレッジ)

小高慶子(アブラクサス)

主催：伊丹市(伊丹公演)

協賛：アサヒビール

写真：高島史於

宣伝美術：井原靖章

料金

前売advance ¥3,000

(入場整理番号付自由席券。
開場時までにお越しください。)

当日at the door ¥3,000

(開演の1時間前より発売。
ご入場は前売券の方の後にあります。)

チケット発売開始

1995年6月1日(休)

前売box office

東京Tokyo

チケットぴあ(Ticket Pia) 03-5237-9988

チケットセゾン(Ticket Saison) 03-5990-9999

伊丹Itami

アイホール(AI HALL) 0727-82-2000

チケットぴあ(Ticket Pia) 06-363-9999

チケットセゾン(Ticket Saison) 06-308-9999

予約・問い合わせ inquiry, reservation

アブラクサス(Abrakax) 03-3483-3520

アイホール(AI HALL) 0727-82-2000

X
03-5624-1181

JR総武線両国駅徒歩3分

JR Sobu Line 3min.
from Ryogoku Station



AI HALL
アイホール

JR室塚線伊丹駅前

JR Takarazuka Line, at the Itami Station

山田せつ子ワークショップ

8月20日(日) 1:00~5:00PM

会場：AI HALL、カルチャールームA

料金：¥3,500

*ダンスの経験の有無は問いません。当日は
体操着など動きやすい服装でおいでください。

*要予約(定員20人)

予約・問い合わせ アイホール0727-82-2000

その集中度の高いソロダンスで高い評価を得ると共に、自らのカンパニー枇杷系の作品を発表してきた山田せつ子がカンパニーメンバーと共に、音楽に藤枝守、美術に美音子グリマーを迎えて新作を上演する。美音子グリマーの音響インスタレーションは静謐の中に圧倒的な力を秘め、空間を包み込む。藤枝守は物の発する振動をコンピューターによって普遍的な音に昇華させ、この空間とダンサーを有機的に結合させる。

山田せつ子 舞踊家、振付家

明治大学演劇科に在学中、舞踏研究所「天使館」に入館。笠井勲に師事。79年の天使館閉館までの多くの公演に出演する一方、77年よりソロ公演活動をはじめ。83年アビニヨン・シャルトルーズ・フェスでの招待公演以来、ヨーロッパを中心に海外公演に数多く招待参加。89年よりダンス・カンパニー「枇杷系」を主宰し、構成、振り付け作品も発表している。94年9月にはニューヨーク、シャロットで代表作「Father」によるアメリカ・デビューを飾り、現地で大きな反響を呼んだ。

枇杷系は、過去に「耳の殻」、「さらわれる子」、「桃色の豚を見た(堀口めぐみソロ)」、「夜、子供はどこへ行くか(花岡安佐枝ソロ)」等を発表している。

藤枝守 作曲家、ミュージシャン

88年、カリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)音楽学部で博士号(Ph.D.)を取得。数多くの国際的な音楽祭で入選。帰国後は多彩な音楽活動を展開している。美術館でのコンサート、内外の音楽祭での客演、委嘱による多数の音楽制作、舞踊や美術の分野のアーティストとも積極的にコラボレーションを行っている。その他、現代音楽講座を主宰し、又企画活動にも力を入れている。

美音子グリマー 彫刻家

岩手大学教育学部を卒業後、渡米。81年にロサンゼルスのアート・インスティテュート/パーソンズ・スクール・オブ・デザインの修士課程を修了。氷・石・木・竹など自然素材を用いた動きと音の伴うインスタレーションの作品を制作し、ロサンゼルスを拠点に全米各地、ヨーロッパ、オーストラリア、そして日本などで個展、グループ展に出品する。88年以降、音楽家、舞踊家など各分野のアーティストとコラボレーションを積極的に行っている。現在ロスアンゼルスに在住。

「Father」公演評より

このソロ作品は山田の劇的な登場で始まる。ステージには細い砂が絶え間なく流れ落ちており、山田は堆積した砂の周りをゆっくりと回って、非常に力強い静寂と集中の一瞬、観客席に顔を向ける。彼女の顔はナマの悲しみなど、はね返すような何かを秘めている。/

山田せつ子の「Father」は亡くなった父親、ひいては芸術の原動力そのものへの捧げ物であった。

1994.10.1 ニューヨーク・タイムズ Jennifer Dunning

10年前、東京で彼女の『ライオン・ハートIII』を見た時、私は山田に舞踏のジャンヌ・ダルクを見だし、非常に感動した。このヒロインは理想を追求するが、積み上げられた泥の中に顔を押し付けられ、手足を変形させられながらもそれを堪え忍ぶ。彼女の美しさは衝撃的であり、それは今も変わらない。その後、彼女は自分の踊りを変えていった。もっと柔らかに、体のラインをのびのびと解放しながら、古典的な舞踏の帝国から外に飛び出していった。/

このようなソロの舞踊は純粋な空気の中でのみ存在できる。1時間以上にわたる微かな、常に変化し続ける精神的な宣言によって緊張を強いられるわけである。山田の美しさとその集中力に魅惑されて知覚速度が早まり、そのスピードで物を見るようになる。すると何の前触れもなく、自分の目がそのゆっくりとした速度や自らの努力によってガラスのように透き通ってくることに気がつくのだ。

1994.10.6 ヴィレッジ・ヴォイス Deborah Jewitt

石をくみながら落下する氷の時間
振動し、やがて砕かれるダンサーの表層
森は揺れ、あやういフォームを浮かび上がらせる

